

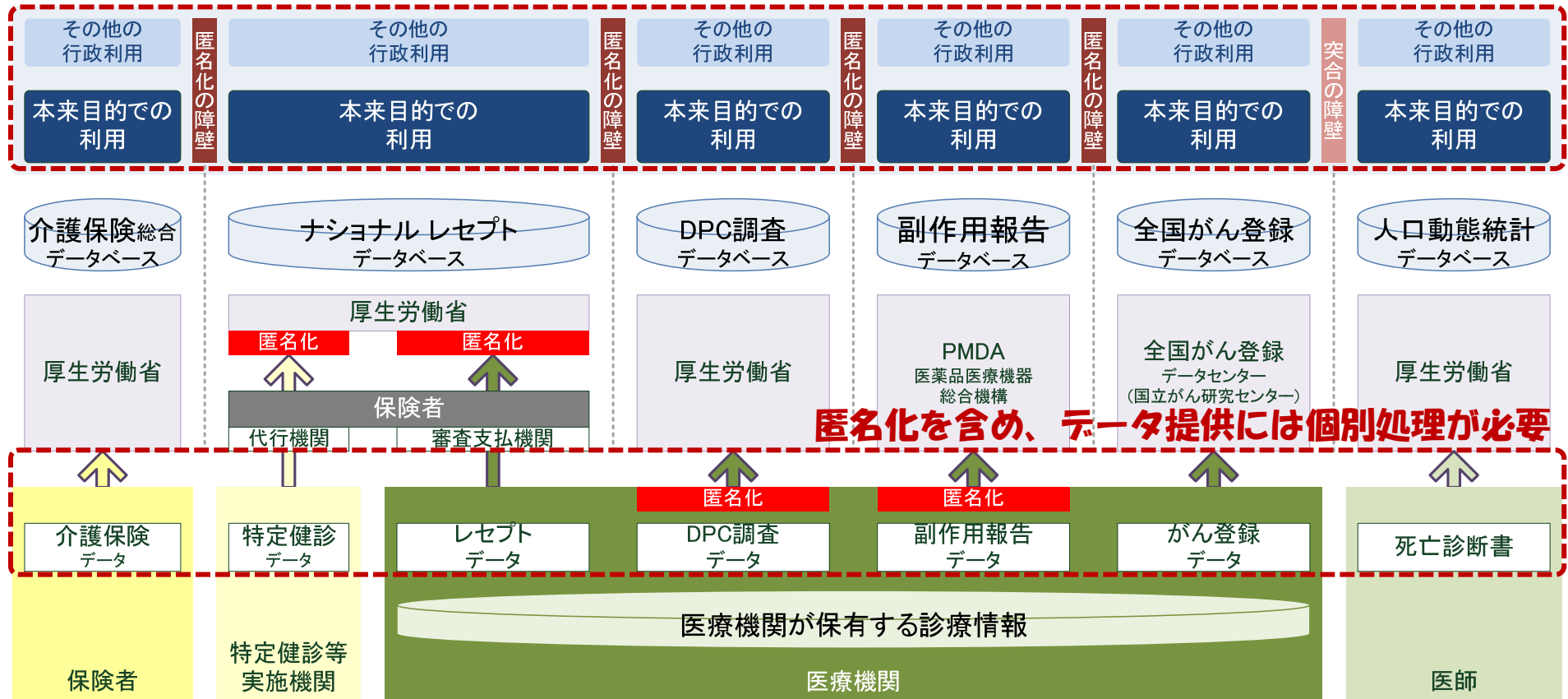
健康・医療分野における ビッグデータの活用について

国立がん研究センター
理事長
堀田知光

国による 医療(ビッグ)データの整備状況

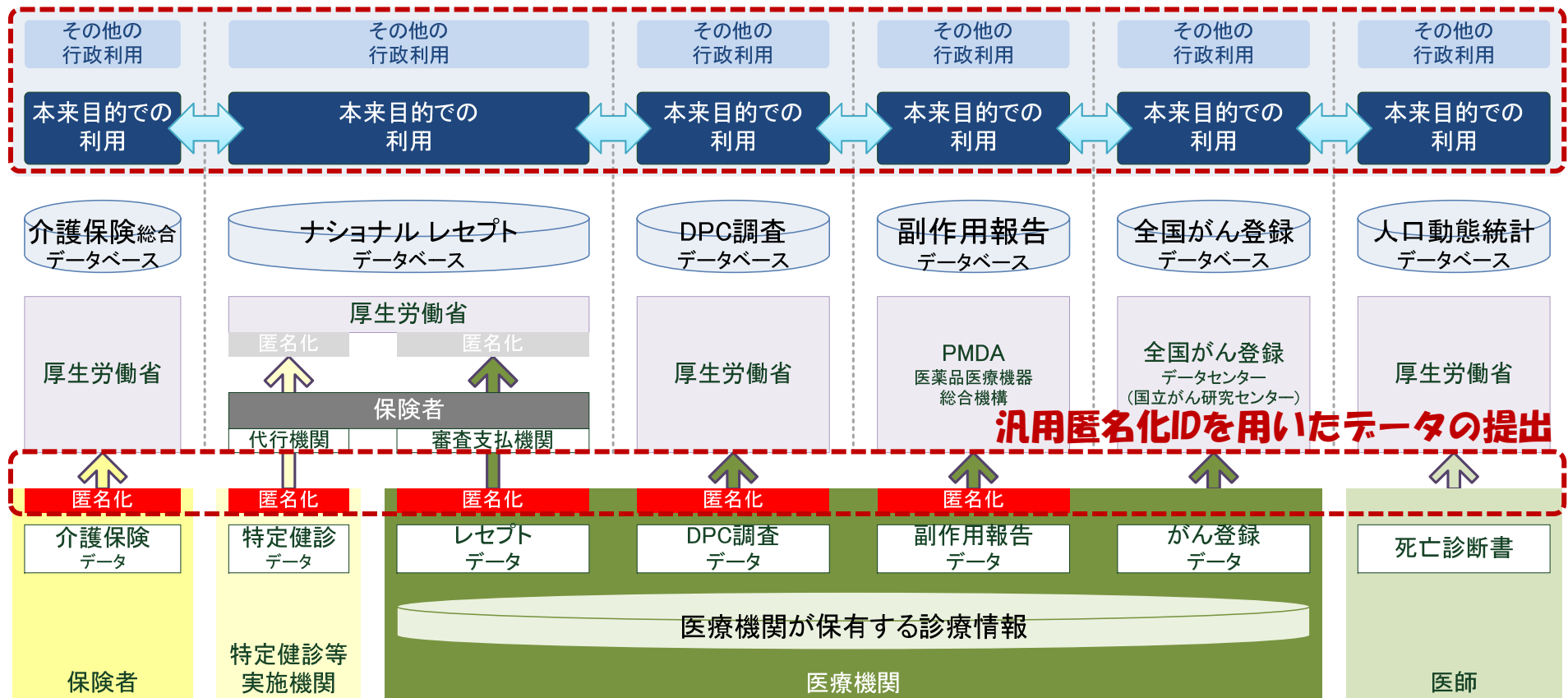
- 電子化されたデータを収集する枠組みの整備は進んでいる
- データの匿名化 と 収集のプロセス は個別に行われており、業務の効率化を阻害し、データベースを孤立化させている

相互参照可能な情報も重複して収集しており、ビッグデータとしてのメリットも発揮できない



医療における”汎用匿名化ID”の導入による効果

- 医療機関等からの提出の時点で **汎用匿名化ID** を用いることで業務を効率化 ← **医療分野でのマイナンバーの利用**
- データベースの「サイロ化」を解消し、**持続可能な医療制度の確保に向けた情報源** として一体活用



さらには、診療記録の標準化を推進してデータの活用性を高め、より効果を上げる